

せたがや自治政策

Setagaya Local Government Policy

Vol. 16

令和5年度せたがや自治政策研究所 研究・活動報告

I 研究報告・活動レポート

・せたがや自治政策研究所研究プロジェクト

世田谷区でデータ活用を進めるために

—ダッシュボードの試作とせたがや版データアカデミーの実践から—

田中 陽子

人口構造から見た自治体の社会空間構造

—東京都世田谷区の人口ピラミッドに関する分析—

平原 幸輝

世田谷区の地域特性の析出2023 世田谷区の人々の移動

—世田谷区民はどこからきてどこへゆくのか—

大石 奈実、田中 陽子

今後の展望—継続的に社会を可視化し続けること—

浅川 達人

・資料

II 活動記録

地域コミュニティの実態に関する調査研究

世田谷区地域行政オーラルヒストリーの発行

特別区長会調査研究機構の研究

せたがや自治政策研究所有識者懇談会

データの整備と活用

せた研ゼミの記録

情報収集・発信

学会発表資料

III 資料

せたがや自治政策研究所

研究・活動報告書の発行にあたって

せたがや自治政策研究所は、単年度の事業計画に加えて、令和3年度より「3か年計画」を策定し、それに基づいて調査研究を行ってまいりました。令和5年度はその最終年度にあたります。新たな基本計画（令和6～13年度）の策定に資することを念頭に置きつつ、政策立案におけるデータの利活用やE B P Mマインドの庁内への啓発等に軸足を置いた取組みを推進するとともに、区の将来展望の基礎資料となる人口動態に関する分析や将来人口推計を公表するなど、中長期を展望した区政課題に関する総合的な調査研究に取り組んでまいりました。

自治体経営のあり方に関する調査研究を踏まえて、地域コミュニティおよび「小さなまちの拠点」に関する調査研究（プロジェクトA）の深化、世田谷区の地域行政史として「世田谷区地域行政オーラルヒストリー」の発行（プロジェクトB）、データの整備と活用（プロジェクトC）の継続的な取組みを展開してきました。本報告書はこれら3年間の成果の集大成と位置づけられるものです。

また、令和4年度より設置された、外部研究者から構成される有識者による懇談会からは、適宜、意見や助言をいただき、当研究所の調査研究に反映・活用してまいりました。同懇談会での意見等と当研究所の対応、反映状況については、「令和5年度有識者による懇談会指摘事項および対応方針」に示したとおりです。

なお、「3か年計画」に続いて、令和6年度より新たに「2か年計画」（令和6年度～令和7年度）を策定し、実施する運びとなります。前計画で積み残しの課題や新たな調査研究テーマを含めて取り組むことを通じて、「開かれた研究所」「信頼される研究所」の実現に努めてまいります。

区民の方々への発信、全庁各所管との協力関係をさらに進める所存ですので、今後も当研究所への変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年7月

せたがや自治政策研究所

所長 大杉 寛